



明けましておめでとうございます。

校長 水野 裕司

新年早々1月2日の朝8時のことです。いきなりお隣の家から、「ガン、ガン！ギー、バキッ！」すごい音が聞こえてきました。私は何が始まったのかと外に出てみました。そこには、朝の冷たい空気の中で、給湯器を交換している業者の人がいました。私の顔を見るととても申し訳なさそうに「新年の早朝からすみません。」とあいさつをしてくれました。私は、「そちらこそ、新年早々寒い中ご苦労様です。」と返事をしました。きっと急に給湯器の調子が悪くなって困っていたので、無理をして来てくれたのでしょう。仕事とはいえ、正月早々に工事に来てくれる。そんな業者の心意気を感じ、その後は騒音が、心地よく（少し大げさかもしれませんが）聞こえてきました。次の日の3日には、浄水場で水質検査の仕事をしている我が家の娘が出勤していきました。「3日から出勤とは大変だなあ。」と言うと、「毎日検査しないと安全を保てないでしょ。私は、3日からだからまだいいほうなの！」と当たり前のように返事が返ってきました。みんなが休んでいるときにも、社会を支える仕事をしている人がいるということを感じ、「何のために仕事をするのか」ということを改めて考えるととてもよい機会となりました。

さて、瓜生小学校校歌の最初の一節は、「山並みこえて 富士が呼ぶ」です。最初は、学校から見える富士山と山並みの美しい風景を表したものだと考えていました。しかし、最近、日本一高い富士山が呼んでいるということは、大きな夢や目標をもちなさいと富士山が呼び掛けているのではないかと思うようになりました。そして、大きな目標に挑戦するには、その前の「山並み」を越えなければなりません。そのように考えると、瓜生小の校歌には、深い意味が込められているんだなあと改めて感心してしまいました。

多摩市では、「2050年の大人づくり」を教育の目標に掲げています。今の小学校の子供たちは、2050年には35歳から41歳になっています。まさに社会を支える中心的な年代です。子供たちが将来社会を担うことのできる力を育成するという、大きな夢に向かい、教職員一同力を合わせて、目の前の課題に地道に取り組んでまいります。本年も本校の教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

～校長の冬休みの自由研究～

12月に6年生が多摩永山中学校の見学に行ってきました。廊下に、中学校から見える山の名前が記された山並みの写真が掲示してありました。そこで、副校長先生にお願いして写真を送っていただきました。いただいた写真は、山並みだけが載っていたので、子供たちがすぐに山を探せるように、建物や鉄塔など窓から見える景色と合わせたものを作りました。現在、西階段の4階から屋上に上がる途中の窓に掲示しています。子供たちが校歌の意味を考えながら、景色を楽しんでくれたらと思います。

【お知らせ】学校だより・学年だより等、学校から配布するお手紙類でデータ配布できるものについては、新しい学校情報配信システム（LINE）での配信に順次切り替えていきます。